

令和8年度 市長との対話集会（中名田地区） 議事要旨

日 時： 令和8年8月26日（水）19時30分～21時00分

場 所： 中名田コミュニティセンター

参加者： 25名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

（1）産業・農業（地域資源の活用と収益化）

- ・ 地区の特産品ブランド「田村のめぐみ」や「奈良漬け」の販路拡大と収益化を図る。
- ・ 現在は会員への販売が主であるため、農村 RMO の補助金等を活用した設備投資や生産体制の強化。
- ・ 農地の草刈りなど地域運営における作業負担の軽減や、働く場所（農園等）の確保による持続的な地域運営が必要。

（2）生活環境・交通・安全（住みやすさの向上）

- ・ 病院など医療機関へのアクセスに不便を感じており、医療設備の充実やアクセスの改善が必要。
- ・ クマの出没が多く不安があるため、地元猟師の活動支援や安全確保の対策が必要。

（3）観光・イベント・関係人口（魅力発信と交流）

- ・ 豊かな自然（星空を眺める、田村川でチェアリング、若狭牛の放牧）や、「多様で個性豊かな人材」を活かした体験型観光の推進。観光客や地元の方が休憩できる常設テラスの設置。
- ・ ツーリング客をターゲットにし、児童館周辺等への看板設置や景観整備（四季の移り変わり、海と山の連携）する。
- ・ 中名田地区での大規模イベント（花火大会等）の開催や、SNS を活用した外部への情報発信を強化。中名田の祭りやイベントのポスターを他地区や市内の店舗に掲示する。
- ・ 離郷した若者がオンラインや SNS を通じて間接的に地域を応援できる環境や、「夢づくり協議会」にジュニア部会を新設し、学生が地域づくりに関わる仕組みを作りたい。

（4）教育・次世代育成

- ・ 高齢者が若者を励まし、若者が高齢者を思いやるような、多世代の日常的な交流を通じた人材育成の環境を継続していくことが重要。
- ・ 他地域の学校との交流機会を創出することで、小浜への愛着や郷土愛が深まる。
- ・ 小学校の統廃合（口名田や今富との合併案）については、小規模校ならではの「上下の繋がり」を重視し、いきなり大規模な合併をするのではなく、まずは口名田と統合するなど地域の現状に合わせて段階的に検討してほしい。

2 市長からの主な回答

（1）産業・農業

- ・ 「地域で稼ぐ」視点は非常に素晴らしく、地域外のファンを会員として獲得する仕組みづくり（商品へのタグ付けや、顧客情報の把握によるダイレクトな情報発信など）を提案。

- ・草刈り等の負担軽減策として、土地改良事業において畦畔を通常より広くとり、キャビン付きのトラクターで快適に草刈りをしている事例が敦賀市であった。中名田地区でも土地改良事業を行うため、若手就農者が参入しやすい環境づくりの参考にしてほしい。

(2) 生活環境・交通・安全

- ・医療機関への距離的制約を埋めるため、オンライン診療などテクノロジーを活用した検討も必要。
- ・猟師の活動支援や自然環境の整備のほか、新しい視点での対策も必要。

(3) 観光・イベント・関係人口

- ・地域の多様な人材のキャラクター化（アクリルグッズ等）や、ツーリング客向けの「飛び出し坊や」風キャラクターの看板を設置し中名田に誘導する案は大変面白い。
- ・地区内の行事や旬の魅力を可視化する「年間スケジュール」があると良い。
- ・中名田を一つのテーマパークと見立てた「年間パスポート（年パス）」の導入（祭りやイベント、農作業に参加できる仕組み）ができると中名田の魅力を満喫してもらえる。
- ・離郷した若者がオンライン（例：遠隔で農業をオーダーし、収穫祭に参加するなど）で故郷を応援できる、ふるさと納税の本来の趣旨に沿った仕組みづくりは面白い。祭りのポスターを市内展開するなど、住民自らの発信活動にも期待したい。

(4) 教育・次世代育成

- ・子供の教育環境を最優先に考えつつ、小規模校の強みである「上下の繋がり」は重要。まちづくりと学校運営のあり方については、地域と十分な対話を継続していく必要がある。
- ・市内他地区での体験学習など、小浜市全体をキャンパスにした教育は、教育長の基本方針とも合致。